

令和元年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495100255	事業の開始年月日	平成26年11月1日
		指定年月日	平成26年11月1日
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター 川崎御幸		
所在地	(〒212-0051) 神奈川県 川崎市 幸区 東古市場 22番地		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和1年9月22日	評価結果 市町村受理日	令和1年12月4日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2014年11月1日より小規模多機能型居宅介護と認知症対応型共同生活介護の複合型施設として開所。高齢者の多い地域なので、地域でお困りの方の相談窓口として役立てるよう、より良い介護サービスを提供できるよう、日々努力しています。天候の良い日は毎日御幸公園やファミリーマートなどに散歩や買い物に外出しています。お誕生日会を中心に、季節毎の行事をご家族様もお招きして、盛大に開催しています。地域の方も数回行事にお招きしました。どなたでも気軽に遊びに来ていただきたいと思っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和1年10月9日	評価機関 評価決定日	令和1年11月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】
この事業所は、JR川崎駅からバスで10分、バス通りから3分ほどのところにある。隣接する御幸公園はナイター設備があり、子供たちが遊べる児童公園も併設されている。事業所の1階は小規模多機能型居宅介護事業所があり、2階3階がグループホームとなっている。駐車場には災害時にも利用できる飲み物の自動販売機が設置されている。
【豊かな環境】
川崎駅から近くバス便も多く、研究施設や住宅などがありながら静かな環境に恵まれている。すぐ隣は梅林とナイター設備のあるグラウンドを有する「御幸公園」がある。またすぐ近くに鶴見川の堤防があり、都会の中の自然に恵まれたすばらしい環境にある。重度化により散歩の機会が減ってはいるが、花見や児童公園にいつでも行ける環境にある。
【事業所内での連携】
開設から5年、1階の小規模多機能型居宅介護の利用者がグループホームを利用する事例がでてきた。通いなれたところへの入居なので利用者も安心して利用している。また職員の入れ替えも事業所内で行う事が多く、今年2月着任の新管理者は昨年までは小規模多機能型居宅介護に従事しており、前管理者は1階の小規模多機能型居宅介護の責任者となって異動している。施設内での職員の異動もあり、全館で一つの事業所として機能している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	ニチイケアセンター川崎御幸 ニチイのほほえみ
ユニット名	ひだまり（2F）

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

事業所名	ニチイケアセンター川崎御幸 ニチイのほほえみ
ユニット名	ぬくもり（3F）

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
		○	3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
		○	4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ニチイ学館に、経営理念や、全国のニチイのほほえみ共通の理念がある。ニチイケアセンター川崎御幸も、拠点単体の理念を作成し、理念に沿った介護を実践するようにしている。	事業所の理念は事務所に掲示している。職員は日項目にしているが特に学習の機会は設けていない。管理者は理念にあるように「みんなで力をあわせ、明るい笑顔の生活が送れるよう支援します」を実現したいと努力している。	理念は職場で大切な支えとなるものです。職員全員が同じ方向を向くためにも、理念を学習する機会を設けることが期待されます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域包括の助言を受けなが、古市場町内会との交流を深めていきたいと思っているが、深い付き合いまではできていない状況。町内会に入会しており、少しずつ地域と密着できるようにしたいと考えている。夏祭りの際は神輿の休憩所として利用していただいている。	町内会に加入し行事の案内をもらっている。夏祭りの祭礼に神輿の休憩所として、かつぎ手を接待し、利用者との交流を図っている。クリスマス会にフラダンスのボランティアを呼んで楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在まだ活かさきれていない状況。地域で介護の困り事があれば協力したいと思っているので地域に発信していきたいと思っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、町内会長等地域の方の参加が定着できていない。地域密着型の施設として地域の方々に参加していただけるようにしたいと考えている。	今年度は地域包括支援センターの所長の出席を得て、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で5月、7月、9月に開催し、主に事業報告を行っている。町内会の役員や民生委員、利用者家族の出席を依頼しているが実現していない。	11月には民生委員の出席が予定されていますが、町内会や利用者家族の出席がありません。地域との連携を強めるためにも、日時を行事に合わせる等、方法を工夫して、参加を促すことが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	努力不足な部分を改善できるように活動したいと思っている。地域との連携を強化できるようにしたい。	区の高齢・障害支援課の窓口には管理者交代時に挨拶に行っている。疑問点がある時や届出提出の際は相談している。保健所の研修に職員が参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部徘徊や事故防止の観点から2階と3階の出入り口や窓は施錠を施しているが、1Fに関しては自由に出入りできるようにしている。入居者様の意向があれば、フロアは自由に行き来ができる。	毎月の業務ミーティングの際に出席者で「身体拘束委員会」として話し合いの場を持ち議事録を残している。虐待や拘束についての研修を行っている。玄関は日中施錠していないが、各フロアはキーを解除しないと行き来ができない。利用者が出たい素振りがある時は職員が付き添って他のフロアに行くなどしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	当社のマニュアルを用いて指導や研修を行い、身体拘束や虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護職員は契約等には直接は関わっていないため、現状は学ぶ機会がない。管理者・ケアマネージャーが必要な情報を現場に落とし込み、情報を共有できるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約やアセスメントの際に、必要事項の説明や質疑応答をおこなっている。契約締結後も、疑問があれば随時相談にのっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会の頻度が高く、ご意見を頂ける機会が多い。入居者様からの意見を頂く機会も多いので、都度参考にし、改善すべき点は改善するよう心がけている。	法人の毎年のアンケートの回答に要望等があった場合は、その都度解決方法話し合っている。今年度は接遇に対する不満に対し臨時の研修を行った。利用者家族とは個々の面会時などに要望を聞く機会がある。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務ミーティングにて運営方針の説明や、質疑応答をおこなっている。 また、業務時間外には親睦会等の交流も行っている。	当日出勤の職員で毎月「業務ミーティング」を行っている。虐待にあたるケアの確認や業務の報告を行っている。議事録はすべての職員に回覧して情報は共有している。管理者は話しやすい環境を作り、職員からの勤務の割り当てや用具の購入希望などの細かな意見は、その場で実行している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	直接雇用の職員が少なく、派遣職員を雇用している。職員不足に伴い残業を余儀なくされているが、現場では各自のモチベーションを落とさぬよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現場においては外部の研修の案内をしている。会社としてはキャリアアップ制度を用いて給与アップがあるものの、OJTの機会は少ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	支店に伺いを立てた後、市内の同業者の連絡会に参加し情報収集や情報の共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学時やアセスメントの際に本人やご家族様等から情報を収集し、御本人が不安無く過ごせるようケアプランを作成し、プランを基に支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時やアセスメントの際に本人やご家族様等から情報を収集し、入居後は適宜連携を取りながらご本人、ご家族様が安心してできる介護を行う事を念頭においている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時やアセスメントの際に本人やご家族様等から情報を収集し、日々の様子を見ながら、必要に応じて、適宜ケアプランの内容を変更しながら支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のペースに併せて、無理強いせずに様子を見ながら、他の方との交流を図っている。違うフロアの入居者、利用者とも交流している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々、様子を見ながら、面会時にご家族と意見交換を行っている。家族、ご本人様のニーズに合う介護を行えるように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご本人様からの謝絶の要望がある場合を除き、基本的な面会の制限は無く、外出、外泊などの要望にも、事前の連絡を頂いた上で応えている。	友人や知人の来所時には湯茶の持てなしを行っている。馴染みの新聞を継続して購読している利用者が2名いる。ヨーグルトや喫煙の習慣などを継続できるよう支援している。昔の仕事の話などを個々に聞くようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	無理強いをしないよう心がけながら、入居者様同士のかかわりを心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、相談に乗ったり、可能な範囲での情報提供や、支援に努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	安心・安全・安楽を念頭に置き、本人の意向を尊重している。自分で発言が困難な方の場合には、その方の立場になって考えるようにしている。	自宅や病院で生活歴や趣向などのアセスメントを行っている。入所後は食事後や夜間のゆったりとしている時にマンツーマンで思いを聞くことが多い。食形態や嗜好品などにこだわりを持っている利用者には、なるべく実現できるよう支援している。会話が困難な場合は表情や様子を見て判断している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時の情報やセンサー方式を用いて支援経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を観察しながら、気付いたことがあれば記録に落とし込み、職員間で情報共有を行っている。できる事はご自身で、難しいことは介助にて対応するよう心がけている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様の来訪時に近況報告や意見交換を行ってからプランの見直しをしている。遠方で足の遠い家族の方に関しても電話にて報告、相談を行っている。	申し送りや業務日誌を参考にしたり、日常的に職員の意見を個々に聞きとっている。計画作成担当者、管理者、家族等でサービス担当者会議を行いプランを決めている。介護計画書は各ユニットのスタッフルームにおいてあり、職員は夜勤時などに閲覧している。	多くの職員の意見から、利用者の全体像を知り、より良い個別ケアを実現するためにも、職員同士で話し合いの出来るカンファレンスの開催が期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の必要性に関しては職員に説明をしているが、現状は残念ながら記載が抜けている場合もある。記録の重要性を再度周知し、報告・連絡・相談を徹底する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	安心・安全・安楽を念頭に置き、入居者様に危険の無い範囲内であれば、既成概念にとらわれることなく新しいことにチャレンジするように職員には周知している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との連携は不十分だが、各ご家族・身元引受人様とはきちんと連携し、入居者様ひとりひとりが安心・安全・安楽に生活できるようサポートしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、提携医の幸クリニックの往診を受けている。容態急変時は幸クリニックの地域医療部に連絡し往診や指示をもらっている。	すべての利用者に24時間対応できる協力医への変更をお願いしている。整形外科などの専門医等の受診は原則家族対応で行い、受診結果は紙面で共有している。毎週訪問看護師の来訪がある。看護師は医師と連携しており、利用者の体調などの情報を医師に伝え、迅速に指示を受ける事ができる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医の訪問看護室や、事業所の看護師ときちんと連絡・報告・相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が発生した場合には、病院でのアセスメントを行い、退院後も入院前と変わらぬ生活を送れるように勤めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ニチイ学館としての看取りの規定は無いが、有事の際は家族や医療機関と連携し、なるべく家族の希望に添った方向での対応を心がけている。	法人の「重度化した場合における対応に係る指針」があり、入居時に説明し確認している。看取り期に入ると医師から家族への説明があり、利用者家族が希望すれば看取りケアに入る。今年度は1名の看取りを行った。容態の変化などは記録書に記載している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内に救急救命マニュアルはあるが、訓練はあまり行えていない。有事に備え、講習に参加したり、訓練を行っていく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設では3月と9月に訓練実施。地域との交流を深め、地域と連携し訓練を行う。	3月と8月に昼の火災を想定した避難訓練を併設の小規模多機能型居宅介護と共に行った。今年度は夜間想定訓練を行う予定をしている。備蓄はリストで管理し、法人に依頼し補充する。玄関横の倉庫に小規模多機能型居宅介護の分と一緒に保管されている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳と自立を守り、プライバシーに配慮した声かけが行えるように努力している。	生活歴などを考慮し、元教員の方には「先生」と呼び掛けるなど工夫している。洗濯たたみや新聞の受け取りなどできる事を支援している。職員は無理強い声掛けにならないよう指導されている。脱衣所にカーテンをつけたりプライバシー確保の工夫をしている。個人情報の入った書類は鍵のかかる書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	安心・安全・安楽を念頭に、入居者様本位の生活を営めるように適宜努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の強制ではなく、入居者様自身の意思決定を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理美容の利用や、入居者様それぞれの好みに応じた対応を心がけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に関しては食材業者を利用している為、入居者様と一緒に考えることはできないが、可能な範囲のお手伝いを促し、楽しむ努力をしている。	食材業者が毎日配達し、各フロアで職員が調理している。魚や肉の嫌いな利用者には業者に依頼し個別で対応している。食器拭きなどを利用者が手伝っている。重度化で外食はできなくなったが誕生日には好みの出前を取るなど工夫している。嚥下の悪い方にはミキサー食にし、食事の介助を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者で栄養バランス等の計算をしている。拠点では水分量を把握し、少ない方には促しを強化したり、嚥下機能の低下している方にはトロミの使用や、ミキサー食にするなど必要に応じた介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、就寝時に口腔ケアの誘導を行っている。毎週（月に4回）木曜日に訪問歯科の往診があり、希望者は診察をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一応の排泄誘導の時間の目安を決めているが、基本的には入居者それぞれの排泄リズムを把握し、時間ではなく入居者様のリズムに合わせた誘導を行っている。	各フロア3か所にトイレがある。居間を挟んで2か所、車いすで介助ができる大きなトイレと自立の人が利用できる小さなトイレがある。もう1か所は脱衣所側にも扉があり、失敗した時はすぐにシャワー浴ができるよう工夫されている。浴室近くのトイレには男性用便器も設置している。手すりを多く設置し立位の取れる利用者の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	提携医と連携しながら日々の排泄の確認を行い、便秘になり易い方には水分補給や適度な運動促し等の取組をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日いつでも入れるように準備している。9名様に週2回以上入浴していただく為、1日3人の目標を設定している。羞恥心に配慮し、強制ではなく、快く入っていただけるよう促しを工夫している。	脱衣所、浴室にはそれぞれ暖房がついている。毎日入浴できる環境を作っている。週に2回以上入れるように毎日午前中に3名程度の入浴を行っている。湯温の好みや入浴時間などは、それぞれの利用者に配慮している。重度の利用者はシャワー浴や足浴、清拭などで対応している。利用者は、ゆず湯やしょうぶ湯などの行事湯を楽しみにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中傾眠が見られる方には適宜時間を見ながら休んでいただいている。夜間に関しては就寝・起床の目安を設定しているが、強制せず個々のタイミングで様子を見ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に薬剤師が立会い、薬の管理をしている。何かあれば提携医と薬剤師に相談している。服薬時は職員のダブルチェックを徹底するよう指導している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	強制をしない範囲で入居者同士の関わりをサポートしたり、孤独が好きな方に関しても放って置くことなく関わりを持つよう取り組んでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩外出をしたいと思っているが、利用者の重度化のためあまり実践できていない。ご家族に協力していただき皆様が少しでも外に出る機会が増えるよう取り組んでいる。	重度化に伴い毎日の散歩が難しくなっているが、ベランダや玄関先での日光浴を実践している。隣に大きな公園、近くに鶴見川の土手があるので、なるべく散歩に出られるよう家族の協力をお願いしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には防犯上の観点からお小遣い金1万円を事務所金庫にてお預かりし、必要な物があれば買い物時にお渡ししています。自己管理ができ、家族が了承している方は自己責任にて管理し買い物等に使っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話をしないように厳重注意を受けている方は職員が対応しているが、そうでない方は自由に電話を使用していただいている。手紙を書ける方は本人に記載していただき職員が郵送している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースを心地よく使用していただけるよう、華美な飾り付けや、移動の妨げになるような物は置かないようにしている。居室内は、なじみの品を持ち寄り、好みなようにしていただいている。	床暖房のある居間は窓が大きく、ゆったりと広く、車椅子の導線が確保されている。キッチンから広がりリビングとベランダまで見渡すことができる。壁にはイベントの写真や、塗り絵、切り絵、折り紙等の作品が飾られている。トイレやお風呂の表示は絵などを使用し、わかりやすく工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにおいては、あらゆる危険に配慮し、見守りの中、各入居者様の好きなように過ごしてもらっている。また、各フロアは自由に行き来していただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室において、適宜の安否確認以外は極力プライベートに配慮し、余計な干渉はしないように心がけている。	事業所の備品には、照明、エアコン、カーテン、クローゼットがある。介護ベッドと車椅子は、必要となった時に事業所が無償貸与している。利用者はテレビ、テーブル、椅子、筆筒などを持ち込んでいる。犬の写真、相撲の番付表などを飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症が軽度で、分別のつく方には家族了承の基、建物内はある程度自由に行き来していただいています。すぐに分からなくなる方にも分かり易いように環境を整備している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ニキイアセンター川崎御幸

作成日 令和1年11月29日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	ケアのあり方やモタリングを日常的に個人に開き取りフォーラムに活かしているがスタッフ全員との話し合いはできていない。	スタッフ全員又は多数での意見交換ができる機会をつくる。	定期的に多数参加できるカンファレンスを開催できるようにシフトの調整休日から出勤してもできるようなる。	1か月
2	3	運営推進会議は行っているが町内会の方やご家族の出席が地域との連携できていない。	ご家族や地域の方々との連携を強める	町内会の会合に積極的に参加し拠点の事よく知ってもらい連携がとれるようにする。 ご家族にも参加の呼びかけをしより多く参加できるようにする。	次回開催時まで 令和2年1月
3	1	理念は掲示してあるが特に学習の機会を設けていない。	理念を唱和する事で理念を共有し同じ目的に向かう業務を行なう。	申し送りやカンファレンスの時などに理念を唱和しこの拠点の基本姿勢を身につけて理解できるようにする。	1か月
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。